

2010年5月23日（日）、京大総人棟

## 佐伯啓思 『「欲望」と資本主義』

京都大学総合人間学部3回生  
安達千季

## 佐伯啓思『「欲望」と資本主義』



### 欲望と資本主義の連動

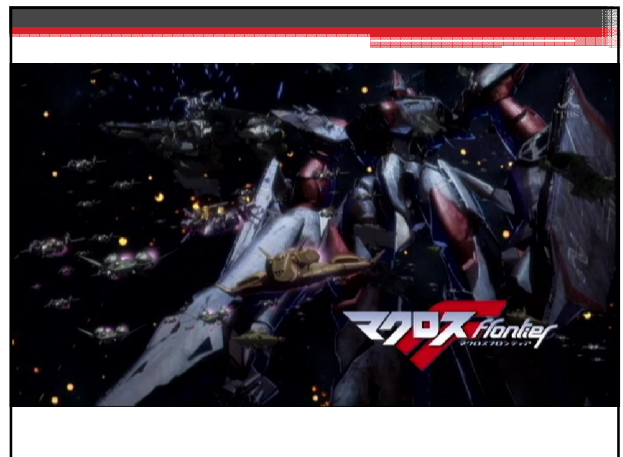
- 欲望とは、つねにフロンティアを拡張しようという動きをもっている。それは知的好奇心においてもそうだし、自然を支配したいという欲望においてもそうだし、宗教的情熱においてもそうだ。だからそれらは、すべてある意味で「欲望」だと言ってもよい。...

### (続き)

- ...人はいずれ、こうした欲望から逃れることはできない。「資本主義」はこうした「欲望」と連動し、共鳴する。それは、こうした「欲望」に形をあたえ、そのフロンティアの拡張を方向づけ、その流れを整序するひとつの装置なのである。では、この「資本主義」という欲望の流れを整序する装置は、どのように作用するのだろうか。

### 「フロンティア」って？

- **Frontier**
- 1 ((主に英)) (...間の/他国との) 国境 (地方) ((between .../with ...))
- 2 ((米・カナダ)) (開拓地と未開拓地との) 境界地方; 辺境, フロンティア, (特に) 米国西部開拓時代の辺境.
- 3 ((しばしば~s)) 限界, 極限
- 4 ((しばしば~s)) (学問・研究の) 未開拓の分野; (ある分野での) 知識の最前線, 最先端の業績





## もくじ

### はじめに

- 1 社会主義はなぜ崩壊したのか
- 2 八〇年代と日本の成功
- 3 資本主義という拡張運動
- 4 「外」へ向かう資本主義
- 5 「内」へ向かう資本主義
- 6 ナルシシズムの資本主義
- 7 消費資本主義の病理

## 読む上での注意

- 「欲望」と聞くと、いかにも悪いものに聞こえるが、価値判断をあまり加えずに機能に注目して読む。
- 「資本主義」もとくに最近の仕事で佐伯啓思は批判的文脈で使うが、今回は分析だから、やっぱりこれも機能で読むこと。
- 学者の名前にビビらない。知らないからと言って落ち込まない。権威づけというテクニック。

## はじめに一問題意識の整理

いま、あえて「資本主義」を主題に

- ソ連・東欧諸国崩壊
- 日本の経済的成長
- 日本の「ゆたかさ」を考える鍵

## 欲望の拡張ということ

- 欲望をもつ人間の活動＝「資本主義的活動」
- (モデルにするとわかりやすい。)

## 本書のスタンス

Theoretical Analysis (理論分析)

**Conceptual Analysis (概念分析)**

Factual Analysis (事実分析)

## 第一章 社会主義はなぜ崩壊したのか

### 1 「経済」についての議論

- 資本主義の勝利
- 前提を疑うこと
- 「効率的」は自明なことか

## 結果的には資本主義が残ったが...

- 1989ベルリンの壁崩壊
- 1991ソ連崩壊
- 中国の資本主義化政策
- 「グローバル・エコノミー」

→格差拡大などの矛盾  
→資本主義への不信感

## 前提を疑うこと

- 経済力が強くなる＝良いことという前提
- 価値判断を「与件」あるいは「自明」として排除使用とする「専門」。
- 経済＝希少資源の配分→効率的は良いこと。  
→これだけでは捉えられない。

## 2 社会主義に欠けていたもの

- 社会主義経済に対する批判
- マーケット開拓の競争
- 「消費者」の成立
- ボーダーレスな「消費者」
- 「市場」をどう考えるか
- 「市場経済」と資本主義

## 社会主義批判

- 適切な生産量の把握ができない。
- 生産者の動機づけができない。
- 商品の質が、人びとのほしがるものかわからない。

## 「消費」、「消費者」

- マーケット＝消費者の群れ
- 欲望を新しい商品に向けられるかが問題
- 欲望の察知・開拓・操作＝マーケティング
- 企業は共通のカテゴリーでくれる消費者の群れに注目する。(例) マックの月見バーガー

→「消費者」に社会主義では対応できない。

## 「市場」、「市場経済」

- 市場経済の条件
  - ①資源が一定
  - ②人びとの好み変化しない
  - ③マーケットの新規開発がおこらない
- 人びとの欲望をうまく利用するのが「資本主義」的活動。

## 第二章 八〇年代と日本の成功

## 1 八〇年代の消費社会

- 資本主義の長期停滞論
- 日本の成功への風あたり
- 日本自動車産業の躍進
- 消費中心主義
- モノのイメージの重要性
- 消費資本主義の誕生

## 資本主義は停滞する、という立場

- 先進資本主義国は、それなりのゆたかさを実現する。
- ゆたかになればモノを欲しいと思わなくなる。

## 「人並み化」から「差異化」へ

- 大量生産「フォードシステム」と、デザイン重視・モデルチェンジありのGM
- 「トヨタ方式」＝多品種少量生産
- 消費者の好みを徹底して追求する
- 「差異化」「人との比較」  
→欲望の衰弱が回避された。

.....八〇年代の日本では、商品の価値形成において、モノの物理的な機能というよりも、モノの発散するイメージやシンボリックなものはるかに重要になったのである.....

- 広告、デザイン、スタイリスト・・・
- 消費資本主義

## 2 日本の「産業主義」

- 日本経済のテクノロジズム
- 理念なきテクノロジズム
- 歪んだ資本主義？

## 技術が改善されてゆく

- 生産技術
- 経営技術

## 欧米では

.....市場経済、個人主義、自由経済、デモクラシーというワンセットの理念、これは社会生活から政治の世界にまで通用する社会の骨格である。.....

- 『自由と民主主義をもうやめる』

### 第三章 資本主義という拡張運動

#### 1 拡張する欲望フロンティア

- マルクスの計算違い
- 階級の崩壊
- 消費者の欲望
- ブローデルの三層理論
- 市場経済と資本主義の区別
- 企業と消費者の共犯関係

#### 階級がなくなった

- マルクスにとって、資本主義は資本家vs労働者という対立に陥る。  
→企業の巨大化でビジネスマン、研究者など中間的な役割が発生。サラリーマンは労働者であると同時に、生活の場では消費者である。

#### 「消費」の形成

- マル経では重要性が与えられていない。
- 近経では無限にひろがる欲望が前提となっている。  
→消費者の欲望から資本主義をみる。

#### 三層理論（ブローデル）

- ①「資本主義活動」：独占的・大規模
- ②「市場経済」：商人や生産者による市場交換  
需要と供給による価格決定、自動調整
- ③「物々交換・自給自足」

#### 「市場経済」と「資本主義」の区別

##### 「市場経済」

- 価格調整メカニズムが作用する
- 企業は一定の活動
- 事業拡大にはあまり関心もたず

##### 「資本主義」

- 企業は絶えず新しい利潤を求めめる

企業と消費者は結合する。  
そして、欲望のフロンティアを拡張させていく。

## 2 過剰の処理としての資本主義

- 「過剰」という考え方
- バタイユの発想
- 過剰の蓄積・先送り
- 過剰に対する資本主義の回答

## 「希少性」と「過剰」

- 経済学では無限の欲望にたいする「希少性」が問題となる。どう配分するか。
- 基本的生存以上の「過剰」な生産力。

→「過剰」ならば経済は成長するはずだが  
未開社会では成長しない...

## 未開社会での「過剰」の処理

- ポトラッチ儀礼
- 「浪費」「蕩尽」（バタイユ）

→資本主義では、経済の中に繰り越されてゆく。

## 3 「欲望」についての考察

- 価値というもの
- 効用と欲望
- ジンメルの欲望論
- 欲望の社会性
- フロンティアの拡張運動としての欲望
- 欲望と資本主義の連動

## 欲望と価値

- 人間には欲望があるから、消費したくなる。
- 人とモノの間に「距離」があるから、ものをほしがる。→価値の発生。
- 「距離」「障害」は欲望の条件。
- 他人との関係から浮き出てくるのが欲望。
- 模倣しあう社会。（ルネ・ジラール「欲望の三角形」）
- 欲望の充足は社会的優越と不可分。
- 家柄・能力...→嫉妬、敵意など

## 欲望は社会的

- 他人に対しての社会的優位にかかわる。
- (マル経)モノには使用価値
- (近経)モノには効用  
→個人的なものである。
- モノには社会的イメージがある。  
(例) ヴィトン、Kitson, Dean & Delucaのトートバッグ,ベトナムにおける日本製バイク, 地元では...?

## 拡張する欲望

- 新規なモノ、非日常のモノへと向かう。
- 科学、技術、芸術についても。
- 神秘的なモノへ。
- 「資本主義」は欲望フロンティアの拡大を方向付ける。共鳴する。

## 第4章 「外」へ向かう資本主義

### 1 「資本主義」はどのように発生したか

- 経済史家の見方
- ゾンバルトの説
- 世界システムの形成
- イスラム商人の遠隔地貿易
- 新規参入したヨーロッパの商人
- 三角貿易—ヨーロッパ・アジア・新大陸
- 新奇なものへの欲望
- 経済発展の原動力

## 新奇なものを欲望する

- 16C—18Cヨーロッパでは日本や中国からのモノが、舶来品というだけで価値になった。
- ステータスを誇示する虚栄心。
- 流行に後れまいとする欲望。

### 2 産業革命とは何だったのか

- 輸入代替のための綿工業保護
- ふたつの新たな三角貿易
- 欲望の膨張としての消費革命
- 文明の差異と資本主義
- 「外」に対する欲望



.....消費活動は地理的条件や消費者の「差異」を発見し、そこに新たな需要を見出すことによって利益をあげる。.....

.....ヨーロッパの欲望はヨーロッパという共同社会ではなく、外に向けられたのだ。そこにはジンメルが述べた「距離」がある。.....

→「東方的なもの」

## 第五章 「内」へ向かう資本主義

### 1 二〇世紀アメリカが生み出した資本主義

- イメージの拡大運動
- 「外」へ向かう資本主義の限界
- アメリカ経済の「普遍性」
- フロンティアの消滅と大衆社会
- 大衆消費者というフロンティア

### イメージの消費

- 明治チョコ、ロッチェチョコ、モロゾフ・ゴディバ

### 「外」から「内」へ

- 「外」への拡大の頂点＝帝国主義
- しかし、植民地化は「外」を内部化すること。
- 二〇世紀はじまりをさかいに、新たなかたちでのフロンティアが模索される

### アメリカのテーラー・システム

- 文化的文脈・個人的な特徴から解放される。
- 大量生産
- それを消費する大衆が存在

## 大衆消費者というフロンティア

- 企業は利潤機会を国内の大衆に求める。

## 2 アメリカ資本主義の象徴するもの

- 二〇世紀資本主義の象徴アメリカ車
- マーケティングというテクノロジー
- 社会的な観念体系の変化
- 「自由」と「デモクラシー」と資本主義
- 視線の交錯の中に生まれる欲望

## 消費欲望の象徴

- 一六、一七C→アジアの香辛料
  - 一八C→中国の茶
  - 一九C→イギリスの綿製品
  - 二〇C→アメリカの自動車
- フォードvsGM（グレード化とモデルチェンジ）

→二一世紀の象徴は？

## 欲望が視線の交錯の中にうまれる

- 欲望の充足＝他人がもっていないものを手に入れる→他人のまなざしが必要。欲望は社会的。

.....アメリカ資本主義は、移民社会、大衆社会という条件のもとで、人びとの「相互の視線」を、強迫観念を、不安感を「欲望」に転化していった.....

## 第六章 ナルシシズムの資本主義

## 1 モノの意味の変容

- 外爆発と内爆発
- モノはアイデンティティの確認装置
- ナルシシズムの時代
- 欲望の対象の変遷
- 衰弱する商品の象徴作用

## 「モノ」をもつ

- モノをもつのが人生の証。「アメリカ人」になる。
- アイデンティティ確認装置としてのモノ
- モノそれ自体よりもそれを身につけ、使い、所有する自分自身に関心がある。
- ファッション＝「ふりをする」
- 「わたし探し」のゲーム。自分自身は絶対手に入らない。

## 個人のフロンティア

- ナルシストは一人になる事を恐れる。賞賛する他者が必要。

## 2 欲望のフロンティアのゆきづまり

- 普遍性をもった商品
- 消費者の個性化
- 欲望を刺激するもの
- 浮遊する好奇心
- 情報回路の中の好奇心
- 情報資本主義における消費者

.....現代人は、欲望のフロンティアを拡張するという自動運動の中ですでに、ほとんど取り込まれている。その中で人は自らを操作してゆく。

.....

- 現代人は、ちょっとした「好奇心で動く」
  - メディア・コマーシャル
  - アイドルのヌード写真集
  - テレビドラマによる生活パターン・消費の創造

## 「内爆発」の行き着く先は

- 本来主体であるはずの人間そのものを操作すること。
- 自分自身を操作する。

## 第7章 消費資本主義の病理

## 1 資本主義とモラル

- 日本型資本主義は歪んでいるか
- 資本主義の精神的起源
- 〈流れ〉としての資本主義
- ルサンティマン
- 終わりなき発展
- 資本主義は止まらない

## 資本主義

- 〈流れ〉：「根っこ」につなぎ止められない。  
→貨幣との親和性が極めて高い。

## 拡張運動

- 拡張の目的、合理的説明はない。
- 盲目的自己拡張
- 「終わり無き発展」

ジョン・トムリンソン「近代世界の物語においては、われわれは、ただわれわれを目的もなく前へ駆り立てる力を甘受しなければならないのだ。」

## 価値の基準がない

- 「発展という強迫観念」  
→自分自身を停泊させようとしても、座標軸自体が動く。
- 可能性増大  
→選択の意味が無くなる。  
「本当に欲しい」などありえない。

## 2 バブルと資本主義

- バブルという現象
- 市場価格には実体はない
- バブルは資本主義の本質
- ミシシッピー泡沫会社事件
- 貨幣の本質
- 投機と投資
- 「ネオフィリア」の資本主義

## バブル

- 好奇心を刺激する。
- ネーミングだけで消費者をつかむことも。
- ネオフィリア=新しいもの好き

### 3 ゆたかさの果てに

- 資本主義のいま
- 「成功するがゆえに没落する」
- フロンティアの変質
- 産業技術のフロンティアからの欲望の解放

### フロンティア拡張

- 知識・技術...の分野
- 新しいものが新しいだけで価値あるものとうけとられる。
- 普通の人びとと技術との距離が開いてしまった。

- 強迫観念から解放されることが良いことかもわからない。  
→拡張はある意味人間の想像力。
- 最終節での提言

### さすが売れっ子

- HP、ブログなどで書評・読書記録を書いている人がたくさんいる。

### 感想

- 1993年に書かれた本だが、2010年現在でもアクチュアリティを失っていない。
- リーマン・ショックなどは「欲望」が拡張する運動の一つの帰結と考えられる。
- ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の「日本各論」として読める。

### 疑問・批判など

- 具体的事例をあげて「これは欲望の拡張運動にあてはまらない」というのはいくらでも言える。(Conceptual Analysisだから仕方ないか...)
- みなさんの実感とはあいますか？
- ボードリヤール『消費社会の神話と構造』を読んだあとでは、真新しさはあまりない。文献にはあげていないが、ほぼ同内容。(オリジナルで思いついたとすればすごいけど...)
- 同書がフランスで書かれたのが1970年。1979年に今村訳で日本語版刊行。

「欲望」はどうもしんどいなあ・・・



中野孝次  
『清貧の思想』

「清貧」とは

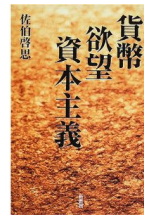
- 私欲をすてて行いが正しいために、貧しく生活が質素であること。「一に甘んずる」

「知足」という考え方

「足るを知る者は富む」

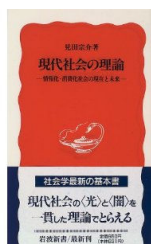
『老子』三十二章より

さらに深めたい人のために...



佐伯啓思  
『貨幣・欲望・資本主義』新書館、  
2000年

Theoretical Analysis かな？



見田宗介  
『現代社会の理論』

個人的趣味では



織田竜也、深田淳太郎  
『経済からの脱出』  
シリーズ来るべき人類学  
春風社、2009年

お付き合いありがとうございました。  
おつかれさまです。